

No	科目名	単位数	内容
1	科学者および技術者の倫理	2	技術者倫理の基本と倫理的な行動に必要な知識を身に着ける。社会的諸関係の中で、科学者および技術者の倫理を巡ってどのような問題が生じているかを、いくつかの事例を題材にして明らかにし、さらに自らが科学者および技術者として倫理上の問題に直面したときに、どのように対処すべきかについて様々な角度から検証し、どこに人間の目標を置くかを考える。
2	生物学実験	1	多様の生物を用いて、培養・分類方法を習得し、生物の系統関係を理解する。動物の個体発生過程の観察と記録に関する実験を行い、生物への理解を深める。実験ノートやレポートの書き方を修得する。
3	化学実験	1	化学薬品の使い方や実験器具の取り扱い方など実験室で安全に実験を行うために必要とされる事項について講述するとともに、重量分析、容量分析、吸光度分析など種々の化学分析の原理と操作法を学ぶ。
4	海洋生物資源学 フィールド演習	2	大学での学習に必要なスキルを身につけ、講義や施設見学などを通じて海洋生物資源学部における学習内容とその意義を考える。各自で課題研究に取り組む。
5	水産増養殖学概論	2	水産増養殖を俯瞰的に理解するために必要な種苗生産学、養魚育成学、魚病学、育種学、発生工学、水産海洋情報学、水産経済学の各分野について、基本的知識と最近のトピックおよび時事的な内容について講義する。講義は学科全教員により行い、水産増養殖が社会においてどのように貢献できるかを理解できるようにする。
6	海洋生物学	2	海洋の起源と歴史、その中で創出された生物多様性について講義し、海洋生物の生存が環境要因とどのように相互作用しながら維持されているかを概説する。また、近年の人間活動が海洋生物の生存に及ぼす影響に関しても学習する。
7	増養殖統計学Ⅰ	2	統計学とは、数値化された事実（データ）の採取、整理、解釈に関する科学である。自然科学の研究や技術開発・各種分析・調査の現場において、適切なデータ採取とそのデータ解析は不可欠である。本講義では、ツールとしての実践的な生物統計学について概説する。
8	水族遺伝育種学Ⅰ	2	遺伝学がどのように発展してきたかを理解するため研究史に沿って講義する。遺伝学を学んでいない学生でも基礎から学べるように初歩から講義する。
9	増殖学実験	1	魚介類の採卵などの種苗生産に関する技術の実際を体験的に学習する。魚介類の代表的種苗生産技術について理解するとともに、種苗生産や養殖現場における環境負荷などの影響について体験的に理解し、他の分野に応用できることを目指す。
10	養殖学実習Ⅰ	1	福井県で実施されている養殖対象種を用いて種苗・幼生の生産から養殖対象種の育成までの過程を実習する。実習では、小浜湾および学科施設において、生産者、県水試、民間企業などの「水産」の現場で働くプロフェッショナルの人たちの協力を得て、カキ類、アユ、ワカメの採苗から中間育成・収穫までを行う。カキ類は、大学専用の海面イカダで養成し、養殖学実習Ⅱへの継続実習として実施する。

No	科目名	単位数	内容
11	養殖インターンシップⅠ	1	夏季休暇中（8月から9月）と出荷時期に水産増養殖の生産現場および流通・販売・観光の現場で実践的に研修を行い、増養殖生産とその関連産業の実態を理解する。養殖生産の現場では複数の生産現場コースを設定し、学生の希望する分野をより深く体験する。
12	水圏種苗生産学	2	魚介類種苗生産は水産増養殖で重要な生産工程である。本講義では、親魚介の成熟・産卵、および孵化から幼魚及び幼生に至るまでの過程で、仔稚魚や幼生が成長、生残するために必要な要因と、魚介類種苗生産の技術・行程について説明する。
13	養魚育成学	2	水産養殖では給餌養殖と天然の生産物を利用する無給餌養殖にくわえて陸上での養殖や陸水域・水田などを利用した養殖が進められている。これらの養殖の原理と技術を理解し、養殖から生じる課題とその解決策について講義する。また、生活史の一時期を人が管理し、その後は自然の生産力を利用して育成させる水産増殖に関しても、原理と具体的な事例を講義する。
14	水産物流通論	1	食料をめぐる国内外の状況の把握とともに、水産物に関する流通、価格形成、マーケティングの基礎を学習する。
15	食品安全管理論	2	食品を食することはヒトに何らかの利益とリスクをもたらす。そのリスクに対して行政機関や食品企業がどのような具体的な体制を整えて管理しているのかについて、日本における食料自給率の低い現状への理解を図りながら解説する。
16	漁業制度論	2	日本の漁業権、許可漁業など各種の漁業制度について、その内容や特色等を学習する。
17	水産経済学	2	日本の水産業が抱える固有の問題や課題を経済的視点から提示する。さらに、それらを分析する基礎理論（経済学の基礎理論及び漁業管理の基礎理論）を解説する。その後、基礎理論を用いて日本の水産業について分析する。
	計	28	